

令和6年1月近江八幡市教育委員会定例会（要旨）

1. 開催日時 令和6年1月24日（水） 午前9時30分～11時00分

2. 開催場所 近江八幡市水道事業所3階 AB会議室

3. 出席委員

教育長	大喜多 悦子
教育長職務代理者	安倍 映子
委員	西田 佳成
委員	大更 秀尚
委員	圓山 淳子

4. 事務局出席者

教育部長	田村 裕一
教育総務課長	岡村 祥子
教育部次長兼学校教育課長	森 茂次
教育部次長兼生涯学習課長	富江 康子
教育部次長兼学校給食センター長	安田 貴裕
近江八幡市立図書館長	奥村 恭代
教育部次長兼スポーツ推進課長	太田 明文
国スポ・障スポ推進課長	伊崎 裕二
幼児課長	畑 明宏
教育総務課長補佐	夜野 友昭
教育総務課副主幹	竹浪 雄大

5. 会議を傍聴した者 0人

6. 会議次第

【議案】

○議第1号 令和5年度教育費に関する3月補正予算要求について（非公開）

【協議事項】

○なし

【報告事項】

- 令和6年度通学区域の弾力化制度利用者について（2次募集分）
- 成人式について
- 令和6年度の図書館休館日について
- 令和6年度の移動図書館車「はちっこぶっく号」巡回日程について

7. 議事の経過

(1) 開会（日程確認）

- ・教育長が1月定例会の開会を宣言
- ・出席委員定数の確認
- ・日程について **承認**
- ・非公開案件

議案

- 議第1号 令和5年度教育費に関する3月補正予算要求について
非公開とするこの提案 **非公開**

(2) 会議録の承認

- 1 2月定例会の会議録 **承認**

(3) 教育長挨拶及び報告

今日は、滋賀県北部は雪が降って交通の止まっているところもあり大変な状況だが、近江八幡市はまだ雪がなくてよかった。予報では、これから明日にかけて降るようだ。ちょうど1年前も大雪が降ったので、対応をしっかりとしていかなければならないと思う。

1月1日の能登半島地震で被災された地域では、3週間たって小中学校が再開されたところもあるが、輪島市や能登町等では中学生が他市へ集団避難をして、学校を2つに分けて授業をされているという現状を考えると、中学生本人も保護者も先生方も頑張っておられて、何かできることがあればということと思う。

滋賀県は能登町の支援をするということで決められており、市としては能登町へ支援物資を送ったり、総合医療センターからDMATとして派遣したり、被災建築物の応急危険度判定士として派遣したり、そういう形で支援をしている。今後もどのような状況になるか分からないが、飲料水を発送するなど、いろいろな形で支援をして行くことになろうかと思う。また、要請があれば動くという部分もあるようだ。

それから、最近学校や子ども達がいろいろなところで活躍されて、受賞されるということがあったため、いくつかご紹介させていただく。

一つは学校だが、近江八幡市立武佐小学校が「滋賀県インクルーシブ教育賞」を受賞された。その内容は、武佐小学校の4年生の子ども達が八日市養護学校の小学部の児童との交流を、約35年間ずっとされているというものであった。きっかけは、人権教育の一環として障がい者理解教育を進めるため、地理的に近い八日市養護学校との交流を行うということで始まったようだが、今は総合的な学習の時間の活動になっているようで、年に2回程度訪問し、一緒に遊んだり歌ったり交流活動をされている。障がいのある人のことや養護学校の生活について理解が深まって、様々な立場に立って物事を考えるきっかけになるということで、今回受賞された。

もう一つは昨日の中日新聞に載っていたもので、安土小学校6年生の「吃音症改善マスク」が「樫尾俊雄発明アイデアコンテスト」で審査員特別賞を受賞された。「生活に便利で役立つもの」や「体の不自由な人に役立つもの」等の4つのテーマがあり、そのテーマに沿って応募されたとのこと。ホームページで本人が説明している姿が見られるので、また見ていただけたらと思う。どういう仕組みかということと分かりにくいですが、そういうマスクであるとのこと、とても面白いな、よくそんなことが思いつくなどと思って、私は感心した。

もう一つは安土中学校の2年生で、私たちが「人権作文」と呼んでいる「全国中学生人権作文コンテスト滋賀県大会」で大津地方法務局長賞という第1位を受賞された。新幹線に乗ったときに、一緒にいたお母さんと、そこにいた若い女性の様子を見て、自分が感じたことをとても素直に表現されており、また、いろいろな視点からの立場で物事を考えられているということで、先日表彰と発表があった。

それから、もう一つは「読書感想文コンクール」の八幡小学校1年生の作文で、毎日新聞に掲載されていた。これは、本との出会いで自分はどのように考えたかということをしつかりと言葉に表せているものであったが、読書に親しんでもらえるよう私も望んでいる。

さらに、もう一つは「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」作文で、八幡小学校の1年生の「さくらへのおねがい」という作文が小学校低学年の部の最優秀賞を受賞した。これは、4人兄弟の自分の妹のことについて書かれたもので、とても純粋なピュアな気持ちがよく分かる。こういうような表現ができるということは素晴らしいなと思ったので、またゆっくりと読んでいただけたらと思う。

1月14日は市の駅伝競走大会ということで、教育委員の皆様にもご参加いただき感謝する。市内では、八幡中学校の成績順位がよかった。また富士宮市へ行っていただくことになるので、頑張ってもらいたい。

それと、その1週間ほど前に、花田勝彦さんという早稲田大学競走部駅伝監督の方に講演をしていただいた。緑町出身で、高校に進まれた後に国立大学に進もうと思っていたが、瀬古利彦さんとお話をされて「一緒に世界を目指そう」ということを言われて、そちらに進んだということであった。講演を聞いて頭

がいい方だとも思ったが、とても誠実な方だと感じた。

花田さんは、中学1年から大学2年まで、ずっと本市の駅伝に参加してくださっていたようで、中学校3年のときには八幡西中学校の代表で出てくれと言われたが、自分は受験生チームを作って参加したいということで、別にチームを作って頑張ったという話をされていた。また、お父さんお母さんは今も近江八幡市に住んでおられるということで、近江八幡市への思いも話していただいた。

そのお話の中から、二つお伝えしようと思うが、一つは「マラソンは芸術である」ということを瀬古さんに教わったとのことで、人の心を動かせるような選手になろう、そうなるように自分を表現できる人間にならないといけない、そのように教えられたと言っておられた。それを、今も指導者として、学生たちに教えているとのことであった。マラソン自体が人に感動を与えるものであるが、それ以上の表現、マラソンプラス例えば言葉、そういう全体でパフォーマンスしなければという話であった。だからこそ、今の学生には読書やスピーチをすること、それから感想文を書くこと等、指導しているということであった。

もう一つは、よく「練習と同じことが試合で出せるかどうか」という話があるが、当日100%を出すのは、やはりなかなか難しい。当日は、何があるかも分からないし、緊張もある。だから、それまでに準備をして予測をして、それで120%を用意する。そうすれば、当日85%の力を発揮したら、それを掛け算すると102%になる。それで期待される結果を出せるのではないかと、そういう結果を導けるのではないかとお話されていた。これは、マラソンや駅伝だけではなく、仕事やいろいろな場面でも言えることではないか。そのようなお話を聞かせていただいたので、また何らかの形で子ども達にも伝えたいと思った。

それから、1月13日に「青少年問題を考える新春フォーラム」ということで、少年センター等に主催していただいた。大更委員にも参加いただいたが、立命館大学産業社会学部の斎藤真緒教授に講演いただき、「ヤングケアラーの現状と私たちが支援できること」ということで、ヤングケアラーの現状、支援の課題等のお話をいただいた。その中で、支援するときには「雑談9割、相談1割」がちょうどいいとの話があったが、これはケアラーの人に対する支援だけでなく、いろいろな場面に通じる部分があると感じたので、ご紹介させていただいた。

(4) 議事

◆議第1号 令和5年度教育費に関する3月補正予算要求について（非公開）

【採 決】

令和5年度教育費に関する3月補正予算要求について

承認

●報告事項

◎令和6年度通学区域の弾力化制度利用者について（2次募集分）

【事務局説明】…学校教育課

【質問等】

○大更委員

弾力化の学校へ行くときに、あかこんバスを使ってもいいのか。基本的に親が送らなければいけないのか。

○学校教育課

弾力化制度を用いてあかこんバスで通学している児童はいない。

○教育総務課

保護者が直接送っていくか、弾力化の通学バスを使っていくかである。

◎成人式について

【事務局説明】…生涯学習課

【質問等】

○安倍委員

抽選会は、実行委員会が自らそれがいいと思ってやっているのか。

○生涯学習課

最初の実行委員会のために、例年こういうことをしているという例を示したが、今年度のオリジナルのアイデアを出してもらいたいということでお話しさせていただいた。しかし、やはり実行委員の方からも「自分たちも抽選会がしたい」とのことであった。実際のところ、今年度は実行委員会が当選する資格がなかったこともあって、来年度は見直しをしてはどうかというような話もあった。

○安倍委員

抽選会もいいが、ミニ講演やミニ音楽会のようなものも、新しい企画の中に入れてはどうか。二十歳の節目に、これからの将来に向け、より良いきっかけになるものを、実行委員会と市教育委員会で考えていってはどうかと考える。

○西田委員

実行委員会の方々は、何か記念品のようなものをもらえるのか。

○生涯学習課

今回は、協賛いただいた中から余裕のあったものを実行委員の分としてお渡しすることができた。

○西田委員

皆のために一生懸命されたのに、抽選会の対象から外れる、記念品ももらえないとなると、気の毒に思う。何かあるといい。

○生涯学習課

後日反省会のようなものをさせていただいたときに、小規模であるが慰労会のようなものをさせていただいた。

○圓山委員

参加者全員へ記念品のような同じ品物を渡すといったものはないのか。

○生涯学習課

例年当日はパンフレットのようなものと恩師のメッセージを印刷したものを渡していた。今年も同じように進むのかと思っていたら、動画編集の得意な実行委員の方が動画を作ってくれて、QRコードを読み込めばいつでも見られるようにしてくれた。これは、今年の実行委員が考えてくれたオリジナルのものであった。

○安倍委員

昔は、選挙管理委員会から選挙権を得たということで何かあったと思う。

○大更委員

参加率が高い気がするが、これはどうか。

○教育長

他市とそれほど変わらないのではないかと。本市が特に高いということはないと思う。

○生涯学習課

来なかった方々の、来なかった理由に目を向けていく必要もあるかもしれない。

○圓山委員

小さい子がいて、見てくれる人がいないので行けないという方がいた。

○西田委員

小中学校のときに既に私立の学校に通っていたから、成人式に行っても友達もいないから行っても仕方がないという方もいた。

○教育長

いろいろな人がいると思う。「成人式なんか行かない」というタイプの人もいるし、それぞれだと思う。

○安倍委員

行きたくても行けない人への配慮も大切だと思う。

当日障がいのある新成人の方も来てくださっていたが、常に母親が隣についておられた。そこに実行委員の方か友達かを見てくれたらいいなと思って見ていた。これだけ特別支援教育もインクルーシブ教育もしている中で、共生社会に対する思いとしては、やはり母親のサポートだけではなく、そういうサポートが実行委員の方たちでできたら、それもいい経験になるかと思う。

◎令和6年度の図書館休館日について

◎令和6年度の移動図書館車「はちっこぶっく号」巡回日程について

【事務局説明】…図書館

【質問等】

○圓山委員

少しそれるが、場所の案内が分かりにくく感じる。例えば「旧病院跡地」や「旧警察跡地」と書いてあるが、引っ越してこられた方等にとっては、どこか分かりづらい。現存する建物の「〇〇の南」といった書き方をした方が分かりやすいのではないか。両方の表現を載せてほしい。

○西田委員

住所を書いておくと、ナビで行けるのでいいと思う。

○図書館

管財契約課とも相談していたが、ご意見を参考にさせていただきたい。

8. その他

9. 閉会

教育長が1月定例会の閉会を宣言